

## 副会長会の報告

期日 平成二十二年

二月二十三日(火)

会場 全国連合退職校長会

会議室

出席者

廣瀬 久 会長

北海道 平間 吉春副会長

東北 小嶋 久人副会長

関東甲信越 大山 睦副会長

東京 太田 秀副会長

東海北陸 飯田 宗映副会長

近畿 浅田 弘副会長

中国 佐藤 博文副会長

四国 橋本 正範副会長

九州 中村 貞夫副会長

他に、各部長、各委員長、総務部長、事務局長、事務局次長計十二名が出席。

## ◆会議の概要

一、開会のことば  
司会 戸張敦雄総務  
大山 陸副会長二、廣瀬会長挨拶(要旨)  
全連退の行事・事業について

は、副会長を中心に各都道府県の退職校長会のご協力により、順調に進んでいます。

教育の問題、政権が変わろうと、本会の基本線は変える必要はないと考えています。

全連退の課題の一つは、会員増を図り、財務状況を安定させることです。各都道府県にいつそうのお骨折りいただくことを期待いたします。

二つめは、先の大戦の体験を語れる会員が少なくなる現状から、語れる会員からお話をうかがいまとめることも大事な仕事かと思っております。ご一考いただければ幸いです。

三つめの、現職の先生方にも関わっている年金問題については、日公連との連携・協力を強めていく所存です。

## 三、報告

1 各部・委員会活動について  
各部長・委員長より報告

2 「全国連合退職校長会教育憲章」について

従来の「教育憲章」案の見直しを図った。各県へ意見を求め、それを基に「全国連合退職校長会教育憲章」を作成し、一月二十六日の常任理事会で決定した。

全国連合退職校長会教育憲章  
(全連退教育憲章)

われわれは、教育基本法の精神を踏まえ、日本の教育推進の指針として、この憲章を定める。

日本の教育は、個人の尊厳、生命に対する畏敬の念を重んじ、日本人としての自覚と誇りを持ち、世界の平和と豊かな文化の創造、人類の福祉に貢献できる心身ともに健康で主体性のある国民の育成を期するものである。

そのために、われわれは、以下に具体的な目標を掲げ、人間育成の具現化に努める。  
1 人間尊重の精神にのっと

り一人一人が自他を大切に、心身ともにたくましく生きる力をもつ。

2 日本の自然を愛護し、豊かな情操を培うとともに、地球環境の保全に尽くす。

3 わが国が、はぐくんできた文化や伝統を尊重し、他国の文化への理解を深め、豊かな文化を創造する。

4 日本の美しいことばを大切に、し、礼節を重んじ、豊かな人間性を培う。

5 誠実さや勤勉さを大切に、勤労の意義と奉仕の尊さを知り、共に生きる喜びをもつ。

6 生涯にわたり、向学心に燃え、真理を求め、創造性豊かに主体的に生きぬく力をもつ。

7 和の精神と思いやりの心を持ち、温かな家庭と心の通い合う地域社会の形成に努める。

8 善悪の判断を正しく行い、公共の精神と社会の一員としての自覚と責任をもって



9 社会の発展に尽くす。  
 9 民主的な社会及び国家の形成に努め、国と郷土を愛するとともに、他国と協調して世界の平和と発展に尽くす。

大野幸男教育振興部長より「この憲章は、綱領と並んで、教育推進の理念としていきたい」との主旨説明があった。

3 新政権への対応について

●十一月四日、全国集会に23団体の一員として参加した。

●行政刷新会議「事業仕分け」に対する意見メールを各都道府県退職校長会の名において送付するよう要請した。

●本部としても、十一月十五日に意見をまとめて送信した。  
 (内容は本号11ページ参照)

●二十二年度「少人数学級の実現に向けた教職員の定数改善に関する要望書」(案)を23団体として検討中である。

●文部科学省は、教員免許制度、教員養成の在り方、教員の資質向上策について等の意見募集をしている。

●全連退は、各都道府県退職校長会の意見を集約し、意見具申することを考えている。

4 平成二十一年度「会務報告」について

●「会務報告」の内容を変えていく。今までは、各部・委員会の活動報告だったが、次年度からは、理事会、総会、副会長会、常任理事会、部長会、部員・委員連絡会、各部・委員会の活動報告にする。

5 平成二十一年度「中間決算報告」について

●収入の部では、会費がもう少し増える見込みである。

●支出の部は、今のところ順調に執行されている。

●今年度から「財務状況健全化会議」を総務部の中に設置し、健全な財務を検討している。

6 平成二十二年全連退本部の主な行事について(略)

7 平成二十二年「目標」「宣言・決議」(案)作成日程について(略)

8 「副会長会の申し合わせ事項」について

●本年度定めた細則や内規の制定に伴って、左記二項目を3の後に追加する。

4 副会長は、総会の議長のほか理事会・総会等の会務を分担する。

四、協議

1 平成二十二年「目標」について

●部長会・常任理事会で検討された文案が、総務部より提案され、副会長から多くの有意味な意見が出された。これを基に修正した文案を、各都道府県に送付して意見を求める。

2 平成二十二年「宣言・決議」文案について

●これも1と同様に活発な意見が出された。

3 各地区の課題、情報交換

九州地区

●熊本市の退職校長会では、市内の全小中学校に保管されている「学校の宝物」を調査し、それをまとめて冊子やDVDを作成した。

●熊本県としては、創立四十周年記念として「熊本教育の人

的遺産」を出版する予定である。そのため全県下から一〇〇名をリストアップして、その業績等をまとめている。

四国地区

●四県での組織構成の違いが大きい。そのため物事を決めることが難しい。

●ブロックとして協議会以外の交流の方策を検討している。(教育の日のイベント等に相互に案内を出す。ブロック内の研修旅行等の案内を相互に依頼することを検討。)

中国地区

●会員の高齢化が進み、組織として関係機関、地域、学校との連携が不十分である。

●県退職校長会事務所の問題で、現職校長会事務所が兼務したり、事務局長の自宅にしているところもあって不便をきたしている。

近畿地区

●会員増加への働きかけとして、県で発行している会報を現職

- 支部組織がない県の加入率の低下が著しい。
- 学校現場の声として「先輩の持つ教育の考え方等を発信してほしい」という要望がある。これに応えるための

東海北陸地区

- 校長にも配付している。
- 退職時の加入への働きかけとして、校長会役員会へ出かけて説明する。
- 事業の活性化のために、各府県本部主催の事業を積極的に進めている。



- 北海道本部費用の中で、削減を検討すべきものとして、会

北海道地区

- 組織を見直すために「会務運営検討委員会」を設置し、40支部を対象にアンケートを行った。

東北地区

- 「東北地区情報」が創刊された。全連退本部や東北各県退職校長会相互の連携協力を密にするためには、関係団体の情報の交換交流や共有、意思の疎通が大切であると考えている。

関東甲信越地区

具体的な方策を探っていきたい。

- 連絡協議会を十月二十二日に横浜で開催。教育支援や社会貢献活動への取り組みの進め方を協議した。
- 教育支援に関しては、学校が何を求めているか、会員がどんな支援を提供できるかの調査等、支援の基礎づくりの段階の県が多い。

- 北海道本部費用の中で、削減を検討すべきものとして、会

東京地区

- 会の活動や事業（親睦・互助、生涯学習、教育支援）について見直しが必要になっている。
- 東京都教育委員会（教育庁幹部）との懇談会を二月に実施した。これを契機として、定期的な情報交換の機会に発展させていきたい。

五 閉会のことば

太田 秀副会長



金森初中局長訪問

総会への文部科学省からの出席、八月の金森局長との懇談会の開催等について確約を頂いた。

その後、会長他四名で、文部科学省へ赴き、金森越哉初中等教育局長にお会いした。そして、六月の総会への文部科学省からの出席、八月の金森局長との懇談会の開催等について確約を頂いた。



広野ただし副理事長表敬訪問

と言われた。さらに高校の実質無償化問題と子ども手当支給について話された。